

古賀市環境審議会（第52回）議事録

1 期日 令和5年7月4日（火）午後2時から午後4時20分まで

2 場所 リーパスプラザこが歴史資料館 中会議室

3 出席委員（13名）

会長	薛 孝夫	副会長	渡邊 裕子	委員	上杉 昌也
委員	小山 彰彦	委員	島岡 隆行	委員	菊次 憲二
委員	中屋 允雄	委員	宮本 重和	委員	小林 智美
委員	花田 徳弘	委員	吉見 一郎	委員	福井 弘
委員	武田 京子				

4 欠席委員 なし

5 傍聴者数 なし

6 事務局出席者職氏名

市長	田辺 一城	市民部長	柴田 武巳	環境課長	吉永 ゆかり
環境課参事補佐兼環境整備係長	村山 隆一	資源循環推進係	橋爪 恵里		
環境整備係	大崎 愛	環境整備係	永渕仁美		

7 一般財団法人九州環境管理協会出席者職氏名

環境計画課係長	時枝 琢	藤原 佐保子	松田 涼樹
---------	------	--------	-------

8 議題

- ・計画策定経緯及び今後のスケジュール（案）について
- ・第3次ごみ処理基本計画策定に係るアンケート調査結果について
- ・小中学生アンケート調査・高校生ワークショップ開催報告
- ・第3次環境基本計画策定にあたっての主な課題について
- ・第2次環境基本計画 計画指標の達成状況を踏まえた評価
- ・第3次環境基本計画の構成案について
- ・古賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の取組状況及び次期計画構成案について

9 配布資料

- （事前配布）
- ・次第
 - ・古賀市環境審議会（第52回）資料一覧
 - ・第11期古賀市環境審議会委員名簿【資料1】
 - ・計画策定経緯及び今後のスケジュール（案）について【資料2】
 - ・古賀市環境基本計画策定に係る高校生ワークショップ開催報告【資料4-2】
 - ・第3次環境基本計画策定にあたっての主な課題について【資料5】
 - ・第2次古賀市環境基本計画 計画指標の目標達成状況と経年変化【資料6-1】

- ・第2次古賀市環境基本計画における取組の実施状況と計画指標の達成状況等を踏まえた評価【資料6-2】
 - ・第3次古賀市環境基本計画（構成案）【資料7】
 - ・古賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編） 現行計画における取組の実施状況【資料8-1】
 - ・第2次古賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（構成案）【資料8-2】
- （当日配布）
- ・配席表
 - ・第3次ごみ処理基本計画策定に係るアンケート調査結果について【資料3】
 - ・古賀市環境基本計画策定に係る小中学生アンケート調査報告【資料4-1】
 - ・第2次古賀市環境基本計画 計画指標の目標達成状況と経年変化（グラフ一覧）【追加資料1】
 - ・古賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）におけるCO₂削減目標の達成状況【追加資料2】

概要

1. 開会

- ・事務局が委員の出席状況を確認し、古賀市環境審議会（第 52 回）として成立することを宣言。
- ・市長より開会挨拶。
- ・市長より委員の代表者として薛委員に委嘱書を交付。
- ・委員より自己紹介（【資料 1】）。
- ・会長として薛委員、副会長として渡邊委員を選任。

2. 議事

(1) 計画策定経緯及び今後のスケジュール（案）について【資料 2】

- ・配布資料に基づき、事務局より説明。
- ・委員からの質疑は特になし。

(2) 第 3 次ごみ処理基本計画策定に係るアンケート調査結果について【資料 3】

- ・配布資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。
 - 薛 会 長 : 市民や事業者へのアンケート調査やごみ組成調査について、類似の調査を過去に行っているのではないかと。過去の調査結果との比較も行っているものと思う。第 3 次ごみ処理基本計画の策定に係る参考資料とするためには、過去の調査結果との比較により第 2 次ごみ処理基本計画の施策導入効果を検証することが重要と考える。
 - 事 務 局 : アンケート調査は平成 19 年、平成 24 年、平成 27 年に実施し、ごみ組成調査は平成 21 年に実施している。それぞれ過去の調査結果と比較できるものは、グラフ等を用いながら整理している。本会議では調査結果の概要のみを報告した。ごみ組成調査については、市の Web ページに調査結果を掲載している。
 - 薛 会 長 : 今回実施した調査結果については、よく分かった。第 3 次ごみ処理基本計画策定に当たっては、過去調査との比較結果も活用してほしい。
 - 中 屋 委 員 : 5 ページに年齢・小学校区別の回答数が記載されているが、年齢と小学校区の回答数を合計した値が、回答者数になるのか。
 - 事 務 局 : 年齢と小学校区について、各区分別で回答数の合計が回答者数になる。
 - 吉 見 委 員 : 2 ページについて、剪定枝は 55.8%が可燃ごみとして排出されているとの記載があるが、榊林田産業グリーンリサイクルセンターに古賀市民が剪定枝を持ち込む量は増加しているか。
 - 事 務 局 : 令和 3 年と令和 4 年を比較すると、令和 4 年の剪定枝持ち込み量は増えている。過去 5 年分のデータを確認しているが、新型コロナウイルス感染症が拡大した影響があるのか、令和 2 年から令和 4 年にかけて持ち込み量は変動している。過去 5 年間で並べてみると、剪定枝の持ち込み量は増加傾向にある。

- 吉見委員：春や秋などの剪定時期になると、家の前に剪定枝の袋が多く並んでいる。これが(株)林田産業グリーンリサイクルセンターに持ち込まれると良い。良い仕組みを作ってもらったと思うので、さらに取組拡大のための方法を考えてもらいたい。

(3) 小中学生アンケート調査・高校生ワークショップ開催報告【資料4-1】【資料4-2】

- ・配布資料に基づき、事務局より説明。

- ・質疑・応答。

- 小林委員：今後も高校生ワークショップや小中学生向けアンケート調査を継続する計画はあるか。今回だけで終わらせてしまうのは勿体ないと考える。継続する予定があるならば、環境審議会の中で結果を情報共有して欲しい。
- 事務局：高校生ワークショップは、第3次環境基本計画の策定に当たって若年層の意見を収集するために実施した。小中学生向けアンケート調査については、短期間に結果は大きく変わらないことが考えられるが、主要な項目であれば再び集約することは可能と考える。
- 中屋委員：高校生ワークショップ開催報告(資料4-2)の2ページに、古賀市の環境の悪い所として「危険な外来生物がいる」と記載されているが、具体的にはどのような外来生物が古賀市にいるとの意見だったか。
- 事務局：「セアカゴケグモ」等の話が挙がっていた。一般的に認知度の高い外来生物である。
- 武田委員：高校生ワークショップは、生徒だけで話し合ったのか。アドバイザーなどを交えて実施したのか。
- 事務局：計画策定に協力している九州環境管理協会の職員や、高校の先生などがワークショップの班に入り、助言などを行った。基本的には、高校生に自由な発想で話し合ってもらった。
- 武田委員：子ども達がごみについて学ぶ場に携わったことがある。そこでは、そもそも「ごみを濡らさない」ことが大事であると教えている。これを普及啓発するべきである。シンクに三角コーナーを置かないことや、チラシで箱を作ることなども教えている。このような経験から、高校生ワークショップについて興味深く感じた。
- 薛会長：高校生ワークショップについて、力を入れて実施されたが、成果を第3次環境基本計画にどのように活かす予定か。
- 九州環境管理協会：計画書の中で、地域環境に対する市民の意識について掲載するコーナーを設け、子ども達が地域環境についてどのように思っているのか、市民に知っていただくと考えている。また、ワークショップで高校生が掲げた環境分野別の古賀市が目指す姿(環境目標)についても、計画書の中で活用したいと考えている。施策の検討などにおいても、成果を活かせる部分は活かしていきたい。

(4) 第3次環境基本計画策定にあたっての主な課題について【資料5】

・配布資料に基づき、事務局より説明。

・資料について、訂正箇所は以下のとおり。

6 ページ：図7「1人1日当たりの家庭ごみ処理量」について、データを精査し、図を差し替えた。

・質疑・応答。

○ 薛会長：市民アンケート調査は今回実施したものか。結果報告はこれだけか。

● 事務局：令和4年度に実施した調査である。詳しい結果については、前回の環境審議会で報告したため、今回は結果を抜粋して報告した。

○ 小山委員：指標の目標値はどのように決めているか。古賀市が独自に設定しているのか。福岡県が設定しているものなのか。

● 事務局：古賀市が独自に設定したものである。

○ 薛会長：第2次環境基本計画を策定した当時の目標値ということか。

● 事務局：そうである。

○ 小山委員：ごみなどについては、他の地域と比較して目標値を設定しているのか。今後の健全性などを考慮したのか。

● 事務局：第2次環境基本計画を策定したのが10年前であり、当時の人口やごみの量、近隣の状況を鑑み、バランスを取りながら、あまり高すぎない目標を古賀市独自に設定した。

○ 小山委員：目標が達成できていないことについてはどのように考えるか。

● 事務局：当然目標は達成できた方が良いが、実際のところ達成できていない。現行計画の計画期間は残り短いですが、啓発や講座によってごみの減量に繋がっていく。目標を達成できなかったとしても、その結果を踏まえて第3次環境基本計画に繋がっていきたい。

○ 薛会長：目標値は理論的に求められているのか、周辺市町村と比較するとどのような設定になっているのか、これまでも議論に挙げたことがある。第3次環境基本計画を策定する際には、根拠があり、実現できる数値を設定すべきである。個別の目標値に関する議論は、次回以降の環境審議会で意見をいただきたい。今回は第3次環境基本計画の策定に当たっての方針が示されたということで、委員にはご理解いただきたい。

(5) 第2次環境基本計画 計画指標の達成状況を踏まえた評価

【資料6-1】【資料6-2】【追加資料1】

・配布資料に基づき、事務局より説明。

・薛会長からのコメント。

○ 薛会長：第2次環境基本計画における計画指標の達成状況について、着実に取組が実行できていることがグラフと共に整理して示され、理解しやすかった。第3次環境基本計画の策定に向けて、この資料が活かされることを期待している。

(6) 第3次環境基本計画の構成案について【資料7】

・配布資料に基づき、事務局より説明。

・質疑・応答。

- 事務局 : 今後計画の内容を拡充していく予定であり、委員からの詳しい意見は次回の環境審議会にていただきたい。第2次環境基本計画の構成を基本的に引き継いでいるが、「都市環境」は「生活環境」に取り入れる形で整理していきたいと考えている。このため、体系としては「自然環境」「生活環境」「地球環境」「資源循環」「環境意識と行動」の5分野で考えている。
- 薛会長 : 第3章に示されている「めざす環境像」は、文言の確定を急ぐものではないと捉えている。第4章の「環境像を実現するための取り組み」の内容に沿って、次回の審議会に向けて具現化されるものとする。項目の立て方や文言などについて、委員から意見があれば伺いたい。
- 吉見委員 : 第4章の地球環境分野について、「温室効果ガス排出量削減目標の引き上げ」と記載があるが、これではよく分からない。温室効果ガス排出量は、電力会社の二酸化炭素の排出係数の変化の影響を大きく受ける。これを目標値にどのように盛り込むのか、考え方を明確にした方が良い。電気使用量は工夫により減ったものの、原子力発電所の稼働状況に応じて排出係数が上がってしまい目標は未達成であったなど、目標の達成・未達成に係る経緯が分かるような目標設定が重要である。これは、日本全国で設定方法を悩んでいるところと捉えている。2013年は原子力発電所の稼働が停止していたため、2013年と比較して現在は排出係数が大幅に下がっている。
- 薛会長 : 「温室効果ガス排出量削減目標の引き上げ」とは、どういう趣旨で記載しているのか。
- 事務局 : 国はゼロカーボン社会を見据えており、国のゼロカーボンに係る取組目標に合わせるという趣旨で記載している。
- 薛会長 : 古賀市としての温室効果ガス排出量の削減目標値について、計画にパーセンテージで記載するつもりなのか。
- 事務局 : 国は温室効果ガス排出量46%削減を示しており、古賀市としても削減率は記載するつもりである。第2次環境基本計画でも、温室効果ガス排出量の削減目標をパーセンテージで記載している。
- 薛会長 : 電気事業の排出係数の変動の影響が大きいのであれば、目標設定や検証段階で工夫できないか、予め検討して欲しい。全般に、第3次環境基本計画の数値目標の設定については慎重に検討していただくようお願いする。
- 島岡委員 : 第4章の生活環境分野について、「不法投棄」や「清掃」の記載があるが、これらは資源循環分野とも関連が深い。生活環境分野に入れるのか。生活環境分野では、大気汚染や水質汚濁、土壌汚染や騒音などの公害的な内容について、身の回りの景観も含めて取り扱うのではないかと。

- 九州環境管理協会： ごみのポイ捨てや不法投棄は、生活環境分野に組み入れている。家庭ごみや事業系ごみについては、リサイクルなどを含めて資源循環分野に組み入れようと考えている。なお、資料には第2次環境基本計画からの主な見直しのポイントを記載している。生活環境分野は、第2次環境基本計画と同様に大気汚染や水質汚濁などについても記載するつもりである。
- 島岡委員： ごみのポイ捨てと不法投棄について、言葉の問題ではあるが、記載項目の分け方の趣旨は理解した。
- 薛会長： この資料は、第3次環境基本計画の策定に当たっての主な見直しのポイントが資料に示されているもので、先ほどの温室効果ガス排出量削減目標の引き上げについても、社会的背景を踏まえて、見直しのポイントとして捉えていることが示されたものと理解する。冒頭の、「都市環境」を「生活環境」に取り入れる形で整理することについては、特段のご意見もないのでそのように進めていただきたい。詳しい内容については9月（次回の環境審議会）に示されるものと考える。

(7) 古賀市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の取組状況及び次期計画構成案について
【資料 8-1】【資料 8-2】【追加資料 2】

- ・配布資料に基づき、事務局より説明。
- ・質疑・応答。
- 中屋委員： 資料 8-2 について、マイクロ水力との記載があるが、これは小水力発電ではないのか。
- 吉見委員： 発電量によって名前が区別されており、小水力発電の方が発電量は大きく、マイクロ水力発電は小さい。
- 中屋委員： 農業用水路で活用できるのは、マイクロ水力発電なのか。
- 吉見委員： マイクロ水力発電だと考える。
- 九州環境管理協会： 上水道や下水道の落差を利用したマイクロ水力発電が活用できないか、市の方で検討しており、このため構成案に記載している。
- 薛会長： 現行計画と比べて、しっかりとした構成となっている。古賀市の実情に合わせて肉付けされていくものと思うので、示された構成案に沿って計画策定作業を進めていただきたい。

4. その他

<事務局からの連絡事項>

- ・高校生ワークショップで協力いただいた竟成館高校の生徒たちが、今回のワークショップの成果を整理して発表する場を設けるよう、教頭先生と調整している。日程が決まり次第委員に連絡するので、ぜひ参加いただきたい。
- ・今回の環境審議会の報酬と費用の支払いについては、7月頃に振込を予定している。
- ・今回の環境審議会の会議録を作成し次第、委員にメール・郵送する。誤字等訂正があれば環境課に連絡いただきたい。最終的には会長に確認いただき、会議録の決定とする。会議録は、市のホームページにて公開する。

5. 閉会

- ・ 薛会長より挨拶。